

第2章 これから～future～

長岡駅前活性化のために

編：では、これから先のことについて教えてください。長岡市の再開発事業の中心として、来年の秋には駅前に「エール長岡クリニック」が開設されますね。

先生：長岡市から声を掛けられるなんて、当初は予想もしていませんでした。これも僕が掲げた「医療を通じて社会問題の解決をしたい」という目標と合致しています。

編：そもそも、なぜ長岡市は再開発事業に医療が必要だったのでしょうか？

先生：まず、まちづくりにとって大切なことは、人が住み、まちが活気づくこと。人にとって、衣食住と同じくらい健康って大事ですよね。そこで、再開発のど真ん中に医療を持つてくる。それも、困った症状が出たらまず足を運んでもらえるような、受け皿の広い“大型クリニック”というのがポイントです。

編：駅前に大型クリニックがある」という安心感で人が集まつてくる、ということもありますよね？

先生：「ものすごくありますよね！ 駅前は昔と比べると、人も店舗も出て行ってしまった。新幹線を降りたときに見える“まちの活気”が僕は好きで。そういったまちづくりの突破口になるのは、まず人が街に住むこと。そして、生活に関わる「医療」がしっかりと駅前にあること。これがまちの活性化につながりますよね。しかも、エールの先生はみんな若くて、平均年齢が約40歳！ これってとても重要で、この先30年は継続性があるということ。ひとつのもちづくりとしては、ある意味完成形です。恐らく、日本初だと自負していますよ。

働く人々のための医療

～6月25日から
土曜夕方までの診療スタート～

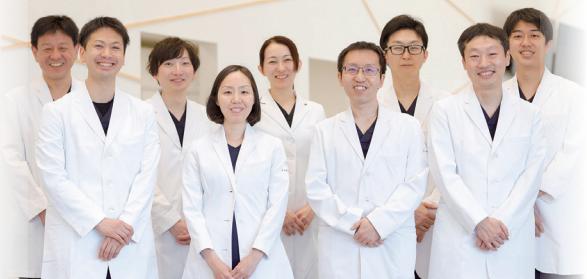
編：アフターコロナの医療については、どんなビジョンを持っていますか？



先生：まずは、医療従事者がしっかりと幸せになれるよう、働く環境を整える

編：確かに、世の中は変わっているのに、医療やサービスが変わらないのは不便に感じます。同じ考えを持つ仲間と仕事ができるのは、とても素晴らしいことです。

まずはエールへ！
内科、小児科、皮膚科の
総合クリニックとして
私たちが医療を提供しています。



力を入れていますが、アフターコロナは僕たちがやりたかった「働く人々のための医療」を積極的に行なっていく準備を進めています。

編：「働く人々のための医療」、なんだか頼もしいテーマですね。具体的にどんな医療ですか？

先生：今は「地域医療」「高齢者向け医療」ともいえる時代です。でも、この社会を支えている“働く人”たちにむけて医療をやりたかったんです。現役世代が仕事を帰りにサクッと行ける病院があって、且つ本格的だったら便利じゃないですか？ そこで「エールホームクリニック」と「エール長岡クリニック」の両方で補完しあい、土、日、夜間の診療を実現させます。まずは、6月25日から「エールホームクリニック」で土曜日夕方までの診療がスタートします。

編：それは、とてもありがたいです。仕事を休んで病院となると、足が遠のくこともありますから。

先生：それが、健康寿命を縮める選択になるかもしれませんよね？ 例えば、健康診断を受けても、その後の診察が受けられない人がいますが、そういうた働き世代の人々が仕事を休まずに健康管理ができる体制を整え、健康寿命を延ばして欲しいという願いもあります。

先生：医療の現場はピラミッド型のいわゆる“白い巨塔”ではなく、“白いキャンバス”が今の時代には合つてます。壁のないフラットなステージで、全員が切磋琢磨することでシナジーが生まれ、質の高い医療が提供できる。僕たちがやっていることは「地域医療革命」なんですね。

編：最後に革命後にある、その先の未来をどう描いているか教えてください。

先生：僕は、子どものときにみたチャップリンの映画「ライムライト」に影響を受けていて。映画では「人生に必要なことは、想像力と勇気とわずかなお金」とありました。が、今の時代は「想像力と勇気と仲間の時代」だと思っています。



僕は、トップダウンの直線を描くリーダーではなく、なめらかな曲線を描く指揮者という意識があります。全体を俯瞰し、みんなが自発的に動けるような組織作りを心掛けています。



理事長というお立場で、どのように大勢のスタッフを動かしているのですか？

